

「豚熱の発生事例から学ぶ飼養衛生管理の強化」 と「選択的殺処分」を考える

開催日時: 令和8年10月7日(水) 13時15分～17時00分
開催場所: ホテルプラザ菜の花 千葉市中央区長洲1-8-1 TEL 043-222-8271
開催方法: 対面並びにZoomウェビナーによる配信(ハイブリッド開催)
QRコードからお申し込みください。申し込み締め切り10月1日(木)
視聴URL及び講習会資料は後日メールでお送りします。

参加費: **無料** 接続定員500名まで



講演 1

農場防疫の見方と作り方 ～どうみるか、どう考えるか～

早川(菅谷) 結子 先生

イデアス・スワインクリニック 院長

国内養豚の脅威となっている豚熱を防止するには、農場防疫による豚群へのウイルス侵入防止が必須である。獣医師は、ウイルスの侵入防止を安定的かつ長期的に実現できる農場防疫の仕組みを農場に対して提供する責務がある。本講演では、効果的な防疫を組み合わせるために、養豚場を常に動いている生きたシステムとして捉え、流れの中で生じてくるリスクを捉える目線について解説する。また、実体験から明らかになった野生動物のリスクと対策実例を映像資料とともに伝える。

講演 2

現行の豚熱生ワクチンの国内流行株に対する有効性について

國保 健浩 先生

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域 主席研究員

最終発生から四半世紀を経た2018年9月に日本の養豚界は豚熱という災厄に再び見舞われるところとなった。この間、国際的な清浄国ステータスを失うとともに野生イノシシによるウイルスの広域拡散を経験してきた。特に今般の流行の原因である外来のウイルス株は初めて経験する低致死性の株である一方、長期にわたる体内残留や(主にイノシシによる)広域伝播を許しやすく、そのため国は早い段階から野生イノシシおよび豚に対するワクチンの利用を進めてきた。本講演では重要家畜伝染病としての豚熱の概要を振り返りつつ、現在実用に供されているワクチンの有効性を改めて議論したい。

講演 3

豚熱発生時の防疫措置(選択的殺処分)

金子 明誉 先生

農林水産省消費・安全局動物衛生課 課長補佐

令和8年5月の家畜伝染病予防法改正により、北海道を除く46都府県では、豚熱発生時の殺処分の範囲が見直され、従来の全頭殺処分から選択的殺処分へと変更された。本制度は、ワクチン接種農場での発生事例の分析や感染実験で得られた知見を踏まえ、豚熱のまん延防止と、発生農場における経営等への影響軽減の両立を目的として導入された。選択的殺処分では、感染豚や免疫未成立豚等、まん延防止に必要な豚等のみを殺処分の対象とする。本講演では、制度導入の背景と選択的殺処分の概要等を解説するとともに、都府県における防疫演習の実施状況を含め、選択的殺処分の導入に伴い新たに求められる防疫対応について説明する。

質疑応答コーディネーター

千葉県東部家畜保健衛生所長

島田 純 先生

公益社団法人 日本獣医師会主催

開催: 公益社団法人 千葉県獣医師会 共催: 千葉県農林水産部畜産課

お問合先: 千葉県獣医師会 TEL 043-232-6980 Email info@cpvma.com

